

●ニュース&トレンド

社会インフラの危機
全日空のシステム障害は
データ滞留が焦点に

2007 6/11

特集 →p.40

NTT東西など急増するトラブル

動かないネットワーク からの脱出

特集2 →p.70

米国RFID最前線
利益刈り取りに動くウォルマート

IT戦略の分岐点 →p.58

アスクルvs.大塚商会
オフィス用品通販2強の営業強化策を斬る

スペシャルレポート →p.98

「高度IT人材育成」の理想と現実

INTERVIEW →p.54

小縣 方樹 氏

JR東日本 常務取締役 IT事業本部長



藤枝 純教の視点

藤枝 純教 (ふじえだ・じゅんきょう)
オープン・グループ日本代表・会長。グロー
バル情報社会研究所代表取締役社長。
CRM協議会理事長。日本IBM出身

「オープン化」は道半ば 重要性を再考すべき時

オープン・グループというIT(情報技術)の標準化を手掛ける非営利団体の日本代表を引き受けてから9年がたった。日本のユーザー企業は自社の情報システムにオープンな標準技術をもっと取り入れる必要があるし、日本のITベンダーはそれに応じてオープンな標準に基づく製品を積極的に開発しグローバル市場に打って出るべきである。こう考えてオープン・グループのお手伝いを始めた。この考えは現在も全く変わらない。

ユーザー企業やITベンダーの40歳以上の幹部は、「オープン・グループというと、UNIXの統一標準を作った組織ですね」「UNIXに代表されるオープン・システムは当たり前存在になりましたなあ」と言われる。そうした時、「その通り、でも、道半ばです」と答えている。

オープン・グループは10年前、分散コンピューティングの標準カーネルDCEを開発したOSF(オープン・ソフトウェア・ファウンデーション)とUNIXの統一標準を完成したX/Openが合併して誕生した、世界26カ国300社弱の企業・組織がメンバーになっている標準化団体である。グローバルに、ITベンダーを超えたユーザーの目線で、情報システムを真にオープンなものにするために、各種IT標準間の相互運用性とクオリティ・オブ・サービスの向上を目指している。具体的には、標準作りとベンダー各社の製品が標準に準拠していることを認証する仕事を手掛けている。

ベンダー固有OSを搭載したメインフレームに

替えて、UNIXサーバーを使うことは当たり前になった。ただ、ユーザー企業のシステム基盤がオープン技術の利点を享受し、社会やビジネスの変化に素早く追随でき、世界各国と簡単かつ安全にコミュニケーションできる形になったのかというと、特に日本は、まだまだと言わざるを得ない。

ユーザーの要請を受け、オープン・グループはUNIX統一後、リアルタイムのOSやJava、WAP、セキュリティ、システム管理、Linuxといった幅広い分野の製品標準作りと認証作業を続けてきた。ここ数年は、エンタープライズ・アーキテクチャ(EA)を作成するための標準フレームワーク「The Open Groupアーキテクチャーフレームワーク(TOGAF)」の策定と認証、さらにはITAC(アーキテクト認証)、SOA(サービス指向アーキテクチャ)まで事業範囲を広げてきた。

インターネットによって世界がどのようにでもつながる時代に、自社のビジネスモデルやオペレーションをどう合わせていくか。ユーザー企業は真剣に考え、必要な自社の全体像を描くことが求められている。オープン・グループがアーキテクチャの領域まで踏み込んだ理由はここにある。TOGAFに基づき、セキュリティ、セーフティとプライバシーを担保するSOAに則り、高品質のサービス中心社会を構築するために、オープン・グループは、今後もささやかな努力を続けていく。本欄でオープンの潮流をお伝えし、読者と共に日本のオープン化を考えていきたい。 □